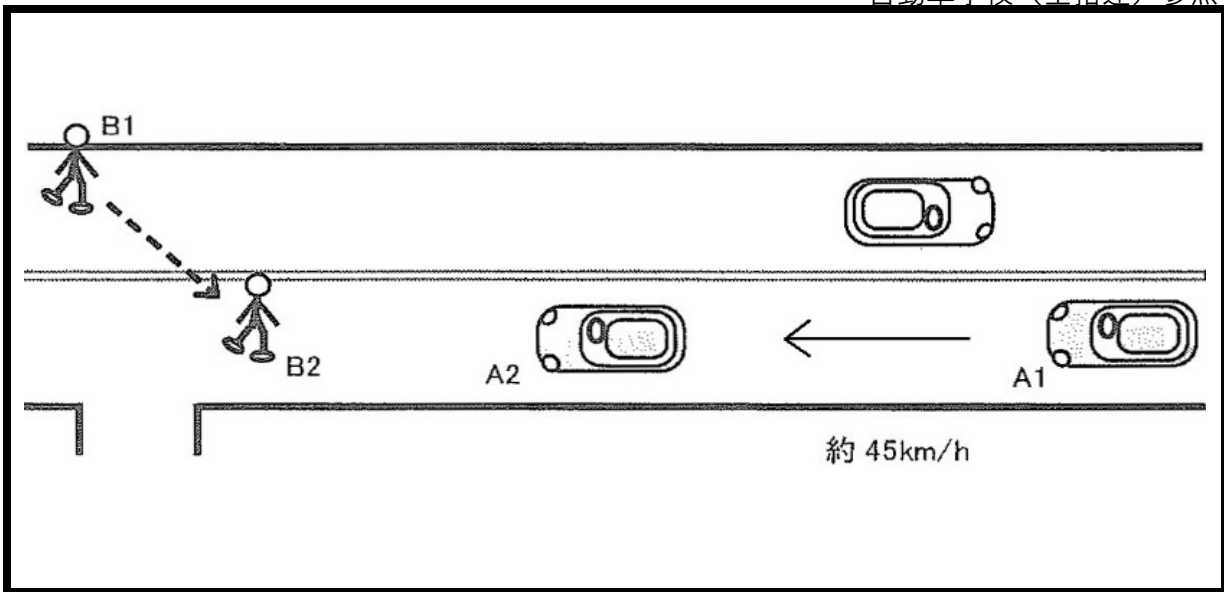


■事故の概況

自動車学校（全指連）参照



事故類型：横断中

発生日時：12月 18時頃 暗い 晴れ

当事者A：普通乗用車 60歳代 男性

当事者B：歩行者 60歳代 女性

■ 事故の概要

Aは、毎日通行する道路をライトを点灯して、時速約45kmで走行していたところ、周りは暗いので前方の坂の上の信号に注意を引かれました。衝突地点手前約100m付近で対向車とすれ違い、約20m前方を横断中のBに気がつきましたが、暗かったことや、その先の信号機に注意を引かれていたことに加え、対向車の陰になり発見が遅れ、急ブレーキを掛けましたが、間に合わず衝突してしまいました。

一方、Bは、いつものように知人の家に行くため、道路を横断しようとしていました。ちょうど右後方から来ていた車両をやり過ごし、その直後に横断を開始しました。詳しくは本人が亡くなったため不明ですが、やり過ごした車の陰になり対向車を見落としたか、初めから安全確認をしなかったか、対向車との距離感を誤ったなどの理由が考えられます。

■ 事故から学ぶ

車両の運転者は、信号機の灯火やヘッドライトに照らされた明るい部分に目が行きがちですので、暗いところにもまんべんなく注意する必要があります。

運転経験のない歩行者は、車両などのヘッドライトは非常に明るいので、運転者から歩行者はよく見えていると思い込んでしまう傾向がありますが、必ずしもよく見えてるとは限らないことをよく認識することが大切です。